

わくわくしよっさ!～未来型図書館がやってくる～
(令和5年3月発行)



発行者：小松市未来型図書館づくり推進チーム
〒923-8650 石川県小松市小馬出町 91 番地
電話番号：0761-24-8042
メール：miraigata@city.komatsu.lg.jp



わくわく しよっさ!

未来型図書館が
やってくる

小松市未来型図書館基本構想

【表紙のデザインについて】

市民のみなさんの未来型図書館に対する想いやアイデアを「積み木」に例え、それらが繋がったり、組み合わせたりすることで、さらなる可能性を広げていくことができる様子を表現しています。

【挿絵について】

つながるミーティングに参加いただいた公立小松大学国際文化交流学部 of 牧田彩伽さんに、妄想ストーリーの様子をもとに描いていただきました。参加いただいたの感想を伺いました。

Q1. つながるミーティングはいかがでしたか？

普段あまりお話しできない方々と話せる機会がいただけてとても楽しかったです。また、小松のみなさんの想いがたくさん垣間見れて興味深かったです。

Q2. 妄想ストーリーを描いてみていかがでしたか？

元々好きな絵を描くことと、みなさんの「こんな図書館になったらいいな」というわくわくした気持ちを合わせる貴重な体験ができて、人の想いを形にするよい経験ができました。ありがとうございました。



牧田彩伽さん



小松市では、令和3(2021)年度より「わくわくする未来型図書館」の
実現に向け、「ともにつくる図書館をつくる」というテーマのもと、
共創による様々な取り組みをスタートさせています。



「こまつのあした、あさって、しあさって
— 未来型図書館づくり第1章 —」

施設整備の道のりのなかで、基本構想を策定した令和4(2022)年度は、「わたしたちにとって未来型図書館とは何か」を言語化するステップであると位置づけ、多様な方々とともに、未来型図書館についての検討と対話を行ってきました。ここで検討した内容は、次のステップ、さらには開館、そしてその先へと着実につないでいきます。

「未来へのかいだん」

「未来型図書館」ができるまでの道のり

<わたしたち>にとって
「未来型図書館」とは何か



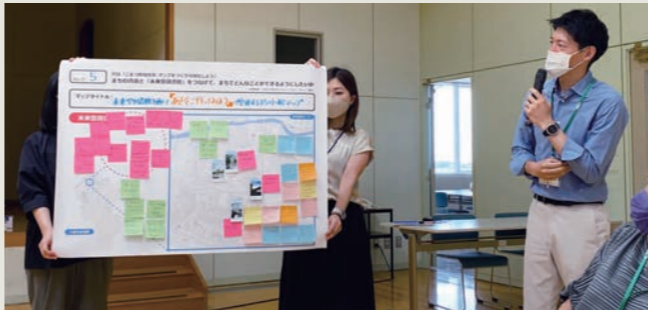
基本計画

基本構想

未来型図書館のあり方に関する調査研究報告書

開館

設計・工事
管理運営検討



タイトル案

目次 / 挨拶	1
「つながるミーティング」について	2
地域資源マップについて	3
地域資源マップ	6
未来型図書館の方向性	22
妄想ストーリーについて	24
未来型図書館基本構想 概要版	30
この本の活用・展開について	34
事業スケジュール	34
あなたにとって未来型図書館とは？	35

第5回つながるミーティングでは、この本のタイトルをみなさんと一緒に考え、『わくわくしよっさ!〜未来型図書館がやってくる〜』に決定しました。その他のタイトル案については、この本のあちこちに散りばめていますので、是非、探してみてください!

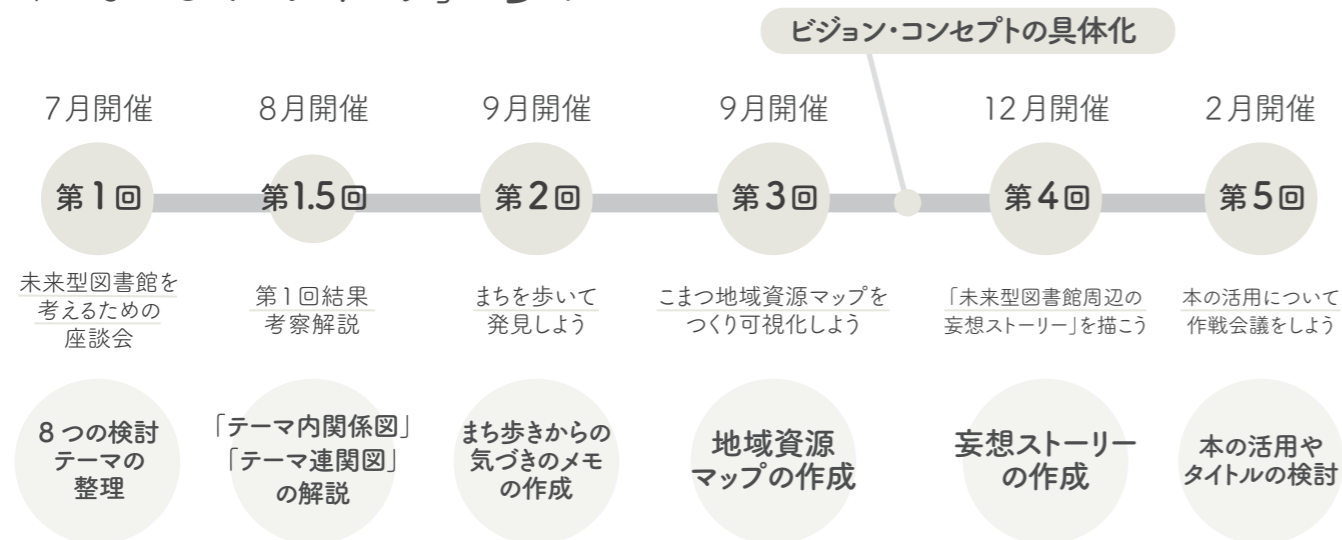
「つながるミーティング」について



未来型図書館ができることで、
まちや暮らしがどのように変わっていくのかという視点のもと、
対話やまち歩き、マップづくりや体験ストーリーを描きながら、
未来型図書館のビジョンやコンセプト、
想定される機能・サービスを具体化させてきました。

「TOMONI TSUKURU」

「つながるミーティング」の歩み



『わくわくしよっさ！～未来型図書館がやってくる～』（この本）について

つながるミーティングの成果を、その先のステップにつなげていくために、対話と活動の記録としてこの本にまとめました。本のタイトルについても、市民のみなさんと共に考えたものです。未来型図書館づくりは、定義もないところからスタートしましたが、このつながるミーティングなどを通じて、ビジョンやコンセプトを言語化してきました。今後、さらなるステップに進んでいく中で、この本は「これまでどのようなプロセスを歩んでき

たか？」ということに立ち返るための大切なツールとなります。この本を活用しながら、多くの市民のみなさんとプロセスを共有し、未来型図書館づくりの輪を広げていきます。



『わくわくしよっさ！～未来型図書館がやってくる～』の構成

この「本」では、未来型図書館づくりの概要や、つながるミーティングで市民のみなさんと一緒につくってきた「地域資源マップ」と「妄想ストーリー」を取り纏めています。また、こうした「共創」の取り組み

から見えてきた、未来型図書館の方向性（ビジョン・コンセプトや想定される機能など）を収め、これまでの未来型図書館づくりの全体像をたどれるように構成しています。

つながる ミーティングや 「本」の概要	地域資源マップ	未来型図書館の ビジョン・コンセプト	妄想ストーリー	未来型図書館 基本構想 概要版
P2-3	P4-21	P22-23	P24-29	P30-33

あなたとつくる未来のハナシ
こまつどーなるんけ？

地域資源マップについて

第1回つながるミーティングで見えてきた、未来型図書館を考えるうえで検討すべき8つのテーマと、第2回のまち歩きでの発見や気づきをもとに、第3回では各グループで地域資源マップを作成しました。

8つの検討テーマ

- 1 過ぎ方、場・空間のあり方
- 2 小松を知る、小松を発信する（人、モノ、コト）
- 3 本 × デジタル、情報の検索・探索
- 4 社会参加、課題発見・課題解決
- 5 情報をつくる、情報からつくる
- 6 出会い、交流、つながり
- 7 ダイバーシティ、インクルーシブ（多様性、社会包摂）
- 8 新しいスタート、チャレンジ

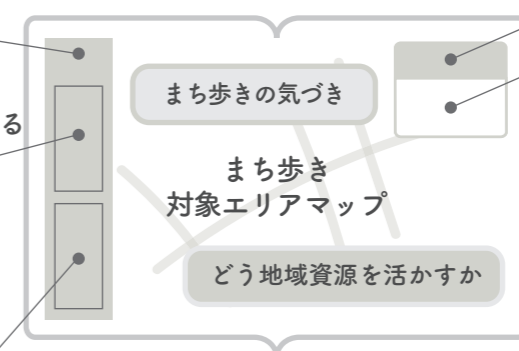
地域資源マップ凡例

各グループ1枚ずつのマップに、第1回から第3回の内容を以下のようにまとめています。レイアウトやテキスト、写真などできるだけグループでまとめたものを忠実に再現しました。

グループの検討テーマ

小松市に存在する（もしくは足りない）
地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）を見つける
第2回まち歩きでの
気づきのまとめを記載

このまちで
「未来型図書館」はどんな存在か
どう地域資源を活かすか
第3回のグループのまとめを記載



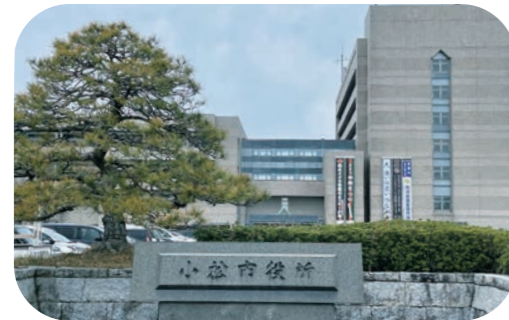
マップタイトル
グループの発表の様子

まち歩き時に
撮影した写真

施設名

地域資源マップについて

第1回つながるミーティングで見えてきた、未来型図書館を考えるうえで検討すべき8つのテーマをもとに、地域資源(ヒト・モノ・コト・場所)を探しにまち歩きにでかけました。まち歩きでの気づきや発見を地域資源マップとして、次ページから8グループ分まとめています。



小松市役所

芦城公園周辺に
カフェがあるといいなあ

フレキシブルな会議室



小松市公会堂



空とこども絵本館

警察署だった絵本館は
とてもりっぱな外観

材木町など、歩いてみると
魅力的なまち並みが多い



石川県小松市團十郎芸術劇場うらら

子どもも大人も
くつろげるのがいい



小松市立図書館(本館)

お寺など文化財が多い
観光に活かせないか？



芦城公園

芦城公園に点在する石碑の説明や
つながりがあるといいな



小松市立博物館

りっぱなお寺が集まる通りは
重厚で魅力的



宮本三郎美術館

情報を編集し
伝える手段が必要

観光客にもっと
おすすめしたい

本や情報、つながりの場が
まちじゅうにあると
エリアの価値が高まる



こまつ曳山交流館みよっさ

知りたいことを探したら
偶然に出会える情報

過ごし方、 場・空間のあり方

テーマ

小松市に存在する（もしくは足りない）
地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）を見つける

まち歩き的气づき

公共施設は数多くあるけれど、それぞれに連携が薄く、居場所としての魅力がわかりにくい。

何かコトが起きるような場にするためにも、またそれぞれがつながるためにどんなハードやソフト（特に人）が必要かさらに考える必要がありそう。

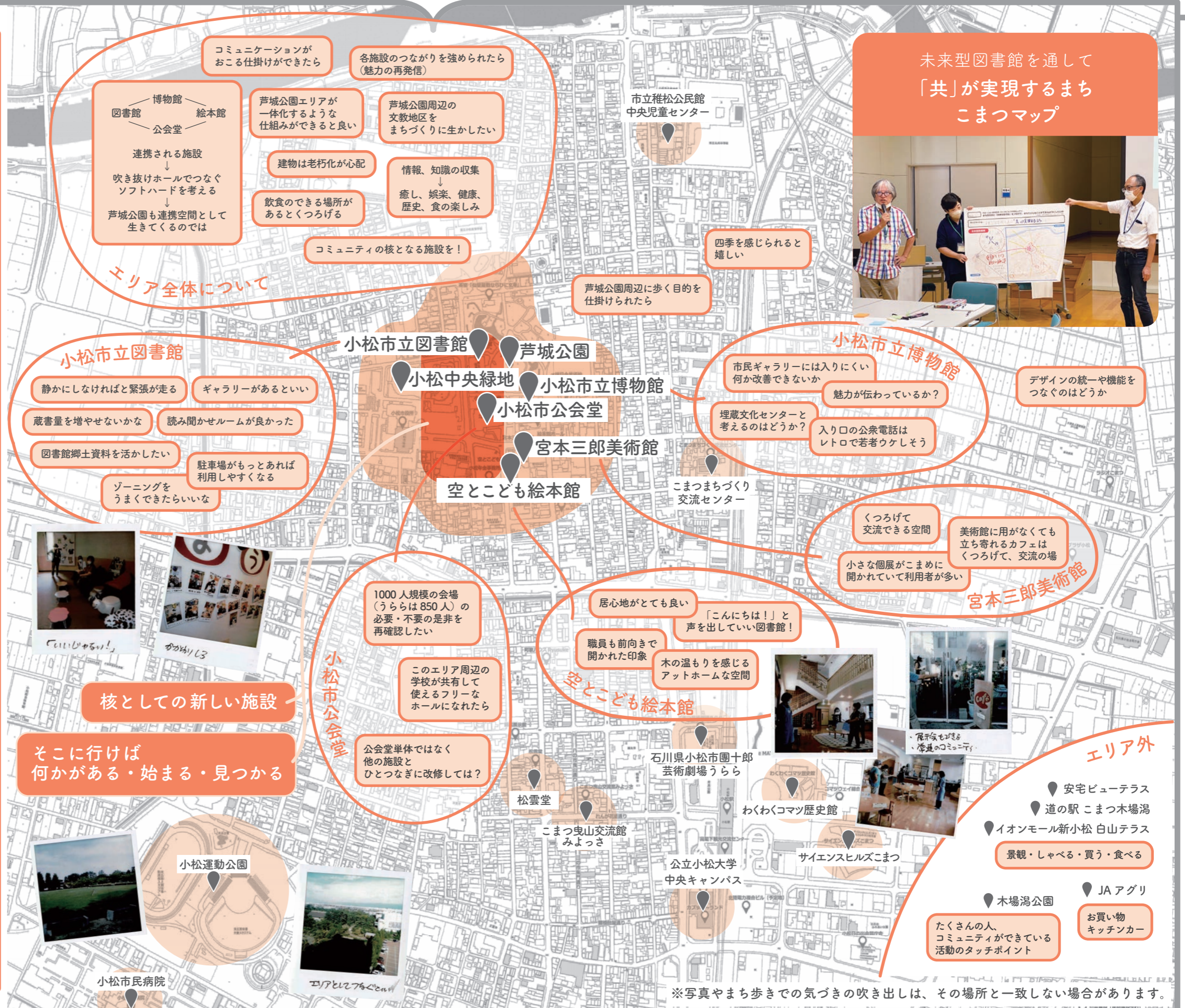
地域資源と未来型図書館を
つなげてどのようなことが
できるとよいか



核としての新しい施設

どう地域資源を活かすか

「核」としての新しい施設から、各施設をつないでいくことが大切。「核」・「共」という言葉をキーワードとして、芦城公園中心の文教施設から派生し、小松の中心街や小松全体の様々なものと繋がりが出来上がっていくことをイメージしている。



2 グループ

小松を知る、小松を発信する(人、モノ、コト)

テーマ

ヒト・モノ・情報の
マグネットに

飛行機を間近に！
(屋上から音を楽しむ)

飲食店・商店
まち歩き目的となる場

小松市立図書館

芦城公園

芦城公園

芦城公園はこれまで
いろんな施設が変遷してきた

小松の新しい魅力ある
文化拠点があるといい

公園内施設の
老朽化が心配

昔、本屋さんはどこにあったのか

未来型図書館を通して
にぎわいが実現するまち
こまつマップ

小松市に存在する(もしくは足りない)
地域資源(ヒト・モノ・コト・場所)を見つける

まち歩き気付き

東町の通り沿いには称名寺・勝光寺・勸修寺等(寺町の方にも)、お寺がたくさん残っている。

アーケード内は人通りも少なく暗く寂しい印象だが、いくつか新しいお店の出店も見られた。

市役所周辺にはいろいろな施設が集まっているが、いずれも老朽化が進んでいる。小松の活性化には、駅前を中心商店街についても検討が必要。

中心市街地には歩いていける範囲に様々な施設が点在しているが、あまり知られていない。それぞれの繋がりが弱く、一体的な魅力の発信ができていないことが残念。

橋北地区(市役所周辺)には飲食店がない。まち歩きをしても人との出会いが少ない。

地域資源と未来型図書館を
つなげてどのようなことが
できるとよいか

ペットと一緒に楽しめる図書館
ドッグランで遊ばせながら
のんびり読書

カップルの
デートスポット

読みたい本を
ロボットが探してくれる

周りを気にせず
くつろげる場
(気軽な空間)
(オンラインワン)

そこでしか食べられない
スイーツがある図書館

どう地域資源を活かすか

図書館だけに人が集まるのではなく、ドッグランやカップルのデートスポットなど、図書館以外に目玉になるものがあり、まち全体がにぎわい目的地となるような施設をイメージしている。

弁慶 小松のシンボル

小松市役所

小松市公会堂

小松市立博物館

小松市教育研究センター

宮本三郎美術館

空とこども絵本館

空とこども絵本館

絵本をテーマに
親子が集う場

警察署だった絵本館は
とてもりっぱな外観

子育て世代が
集う場に

歩いて気が付く素敵なまち並み。
学生や若い方が
歩ける目的が何かほしい

駅から図書館まで
楽しみながら歩ける

橋北に
飲食店があるといいな

古いまち並を
活かす

材木町など、歩いてみると
魅力的なまち並みが多い

りっぱなお寺が集まる通りは
重厚で魅力的

お寺など文化財が多い
観光に活かさないか?

町屋、まち並みが
残っている

町屋街はきっと若い観光客が着物
を着て歩きたくなるまち並み。
そういう人々をターゲットにした
商売を若い人たちが始めるかもしれない

大文字町など空き地が多くあり、
駐車場になっているところもあり
もったいないと感じた

老朽化が心配

文化団体の
活動拠点に

こまつ曳山交流館
みよっさ

こまつ曳山交流館みよっさ

観光客にもっと
おすすめしたい

歌舞伎の館だと思っていたが、
市外の人が観世能楽のお稽古に
使っている様子が見れた

※写真やまち歩きでの気づきの吹き出しは、その場所と一致しない場合があります。

3 グループ

本 × デジタル、情報の検索・探索

テーマ

小松市に存在する（もしくは足りない）
地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）を見つける

まち歩きの気づき

公園内は歴史と緑があふれる空間、場所である。図書館以外に「本」を手にとれる場所がわからない。

まちの情報が配置されているがバラバラなためわかりにくい。

QRコードを読み取っても情報の中身が更新されていない。これでは情報として届かないのではないかな。

公共施設の情報が施設の外ではあまり触れることができず、中に入らないとどういう施設なのか、どんな展示をしているのかわからない。

情報を一元化するためにデジタル技術を活用するのよいのではないかな？

デジタルに触れたいが触れられないシニアにいかに伝えるかも課題となる。

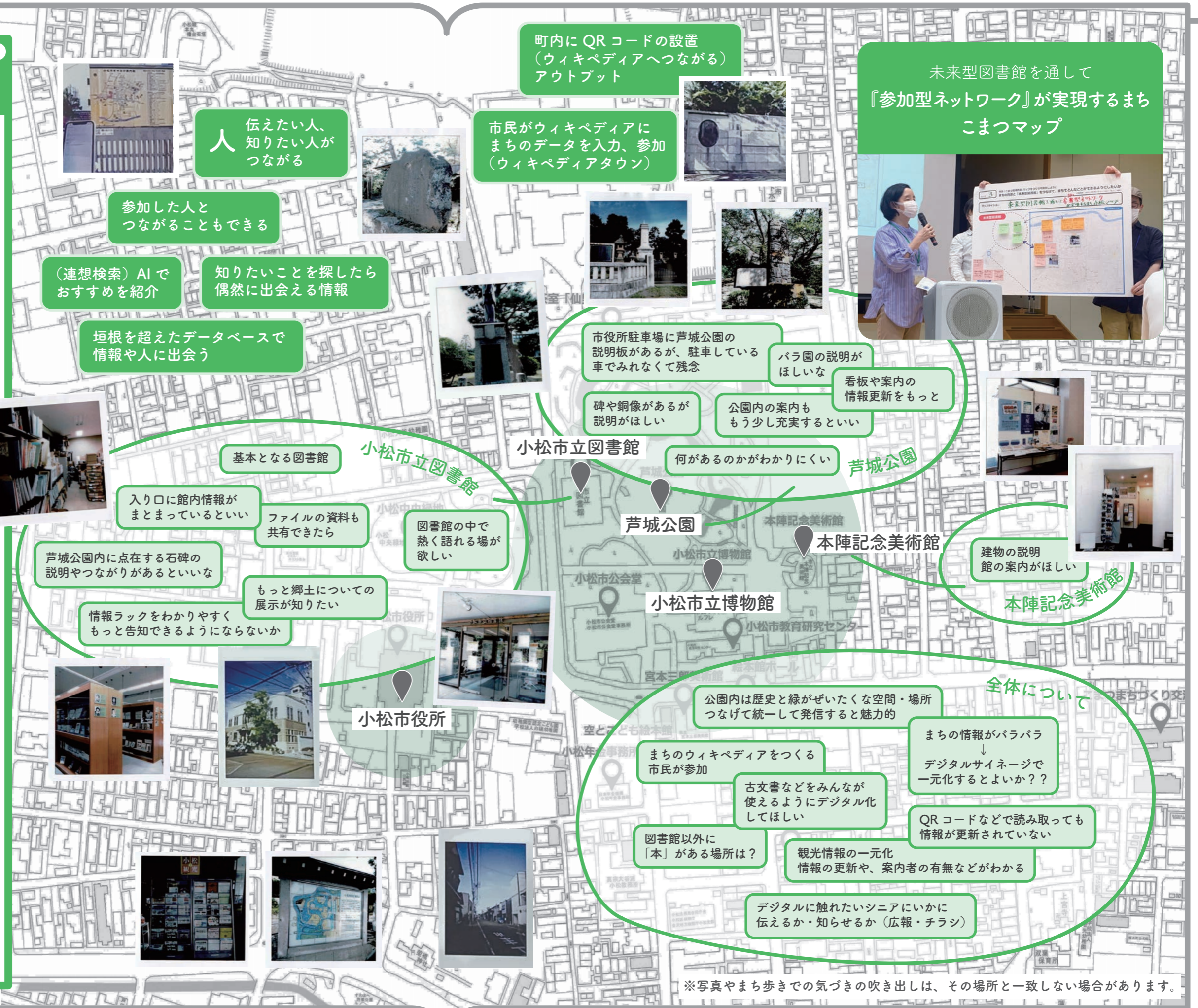
まち（小松市）に関する情報を市民参加でつくるのよいのではないかな。

地域資源と未来型図書館をつなげてどのようなことができるのよいかな

- デジタルサイネージ
1枚地図で所在地がわかる（駅構内にあるような）
- ウィキペディア編集のプログラム
- 連想検索システム
「この本を借りた人はこんな本を検索しています」

どう地域資源を活かすか

情報の垣根を超えるために、市民参加による「ウィキペディアタウン」を開催するのよいのではないかな。また、「連想検索」や「デジタルサイネージ・マップ」も整備できるとよい。こうした取り組みを通じて市民参加型のネットワークへとつなげたい。



4 グループ

社会参加、課題発見・課題解決

テーマ

小松市に存在する（もしくは足りない）
地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）を見つける

まち歩き

広場の周りに施設が集まっているなど、みんなが共有できる空間があると、つながり・にぎわいが生まれる。

本がある場所（施設）がいろいろあることを知った。さらに増え、本に出会えるエリアとしてのイメージが生まれるとよい。図書館と情報が連携できるとよい。

個々の施設がターゲットとしている世代が限定的であり、相互のつながり・回遊性に乏しいように感じる。

機能やサービスが知られていない施設。土曜日に閉館している施設など「もったいない」と感じる。芦城公園周辺にカフェなど飲食できる場所が少ないように感じた。

どこか一ヶ所に機能を集約するとそこだけに人が集まってしまう。各施設を巡る・歩ける「しかけ」が必要。それが本であったらよいのではないか。

地域資源と未来型図書館をつなげてどのようなことができるか

- つながり
 - 生きがい
 - 働きがい
 - 人づくり（育て）
 - 学びがい
- どう地域資源を活かすか

「つながり」「生きがい」「働きがい」「学びがい」をキーワードとしており、人育ても重要な視点。

また、自分事で考えるという意識をもつこと、世代を超えてつながり、お互いの良いところを活かしあうなど、それらを通して、一人ひとりの幸せに貢献する施設をイメージしている。



5 グループ

情報をつくる、情報からつくる

テーマ

小松市に存在する（もしくは足りない）
地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）を見つける

まち歩き の 気づき

産学官問わず、市内の情報が共有・発信で
きていない課題がある。

こまつまちづくり交流センターが市民活動を支
える中間支援組織であることや、ライブハウス
機能を持つ市民交流プラザに店頭チラシがない
ため、施設概要や料金を知っているメンバーが
いなかった。

届いていない・知られていない情報（施設、イベント）
があることは、非常にもったいない。

情報の集約・編集とともに、連絡ツールを整えな
いと、連携を進めるにあたって支障があるので
はないか。

地域資源と未来型図書館を
つなげてどのようなことが
できるとよいか

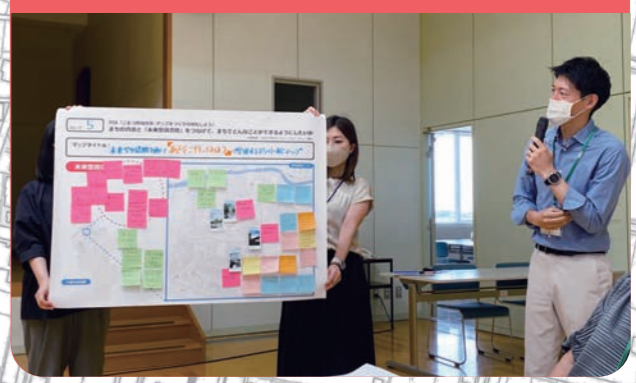
- たくさんの人が関わっていたら
よいサービス機能（アイデア）
- ・情報を活かす
 - ・各地のお宝情報を
集めるサービス
 - ・まちの情報を発信
するサービス（館内・
WEBなど）
 - ・広報・メディア・SNS
などを集約した配信
アプリサービス
 - ・行列ができるイベント
にするための、チラシ
のつくり方動画の配信
方法など、広告手段
における養成講座＋
機材スタジオの完備
 - ・本を読んだあとに
その体験ができるサー
ビス（ex 料理など）

どう地域資源を活かすか

小松には魅力がたくさんあるのに知られ
ていないので、様々な施設を知れる場所に
していこうというコンセプト。
未来型図書館の中では、様々な施設の
情報を集めて、施設同士をつなぐハブの
ような機能をもたせる必要がある。



未来型図書館を通して
『あ!そこ行ってみよう』が実現するまち
こまつマップ



小松市に存在する(もしくは足りない) 地域資源(ヒト・モノ・コト・場所)を見つける

まち歩き気づき

利用者のターゲット層などが限定されている施設が多い中、コミュニティスペースととんひろばでは、子育てや介護の相談、各種研修会の会場などとして利用されている。利用者は学生や子育て世代、高齢者など多様な世代が集い、出会い、つながれる場所として機能している。

人との出会いや心の拠り所になるような場所がまちの至る所に点在している。

利用方法などがわからない、知られていない施設が多いように感じる。(利用料金・利用できる時間帯・利用可能な対象者など)それぞれの施設で完結している印象があり、他の施設とのつながりや交流を持たせるなど、まちや地域全体で相乗効果を生み出せるような仕組みなどが必要。

地域資源と未来型図書館を つなげてどのようなことが できるとよいか

♡ ラブな出会い	中の様子がわかりやすく もっと開かれた空間
郷土史、小松の歴史 自分で買えない 本に出会える	誰もが使いやすく 行きやすいアクセス
過去があるから 未来がある	しゃべりあって 何でもできるスペース
小松を知りつくした 人に出会える!	観光名所・食事処

どう地域資源を活かすか

ターゲットを限定せず、子どもからシニアまで様々な世代が混ざり合い、新たな出会いや交流・つながりが生まれる場所にしたい。

また、小松の歴史・郷土史などにも触れることができ、過去からのつながりを感じながら、未来を描いていける場所であってほしいというイメージ。

